

SEMINAR

現代経済学科のゼミ

01

KIMIYUKI MORITA
森田 公之ゼミナール



経済学×多様なテーマで
データ分析にトライする
森田 公之 講師

私のゼミでは「データ分析をやってみよう!」をテーマにしているため、研究対象は幅広く、グループごとに様々なトピックを扱っています。今年度は「オンライン講義と対面講義の効果」「スマホと学力の関係」「商品の価格表示と売上の関係」「広告コピーと売上の関係」をテーマにグループで研究をしています。どのようなテーマを選んだとしても、ミクロ経済学や企業経済学など経済学部での学びを活かしてデータ分析に取り組む点は共通しています。

データの活用法を学び、
経済の視点から調査

4年 石渡 夏弓

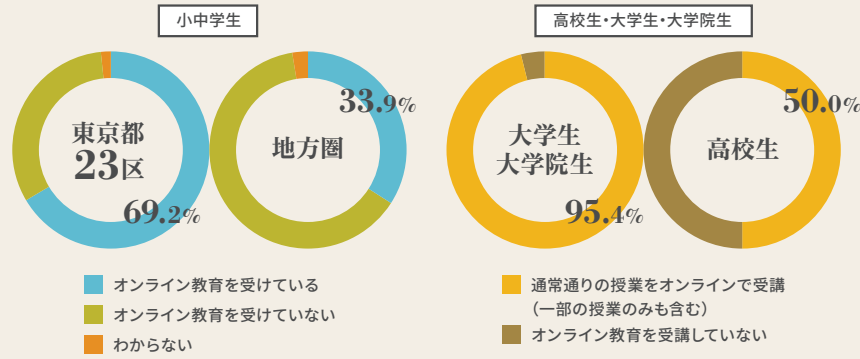


昨年度から活動を始めた新しいゼミで、皆で協力し切磋琢磨しながら研究をしています。2・3年生はグループごとに身近な興味について経済学の視点から調査しています。4年生は関心のある社会問題などについて卒業論文を執筆します。データの活用に重点を置いているため、情報の集計方法はもちろん、Excelなどツールの扱い方も学びます。毎週発表の機会があり、伝えるだけでなく、聞く心構えも身につきました。

データ分析は
これからの
必須スキルです



〈オンライン教育の受講率(※1)〉



目的 | オンライン授業がもたらす学習への変化を比較

仮説 | オンライン授業の方が学習意識が高まる

↓↓↓ 関連する様々なデータを集める ↓↓↓



検証結果 | コロナの影響で時間が増えたとは言えない

結論
オンライン授業の方が対面時より同じか
少し学習への意識を高める

※1: 出典 / 森田ゼミ生を対象としたアンケート結果を基に作成

現代の経済事情

02

HIROAKI MORI
森 啓明ゼミナール



客観的事実を読み取り
意思決定するスキルを培う
森 啓明 准教授

「家族と子育ての経済学」を研究対象としています。前期は結婚や子育てに関する様々な社会的課題について皆で勉強会を行い、後期は各自が設定した研究テーマについて研究活動を行います。ゼミでは特にデータから客観的事実を読み取るスキルと、データから意思決定に役立つ知識を創り出すスキルを身につけることを重視しています。データの活用が広がる新時代を生き抜くために、皆さんには培ったスキルを活用してほしいと願っています。

データ×思考から身近な
興味を解き明かす楽しさ

2年 西原 崇純

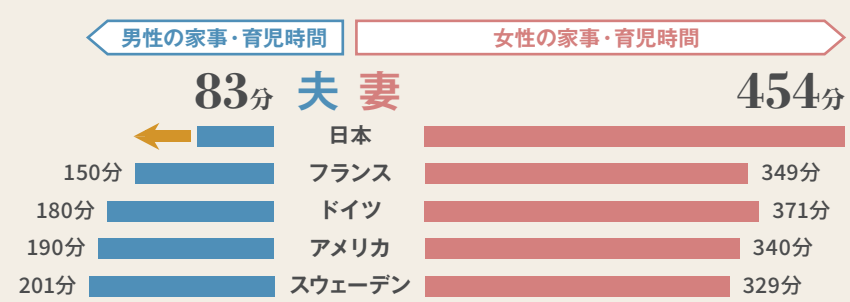


森先生のゼミでは「データサイエンス」を扱います。現在需要が増えている領域であり、何より自分の気になる身近なテーマについて「データ」と「自らの思考」で解き明かす楽しさがあります!コロナ禍でも先生と学生がひたむきに取り組む、真面目な雰囲気の良いゼミです。興味のあるテーマの研究を通して学ぶ楽しさを知るだけでなく、教授や仲間たちとの関係を築く過程が貴重な社会体験の機会にもなります。

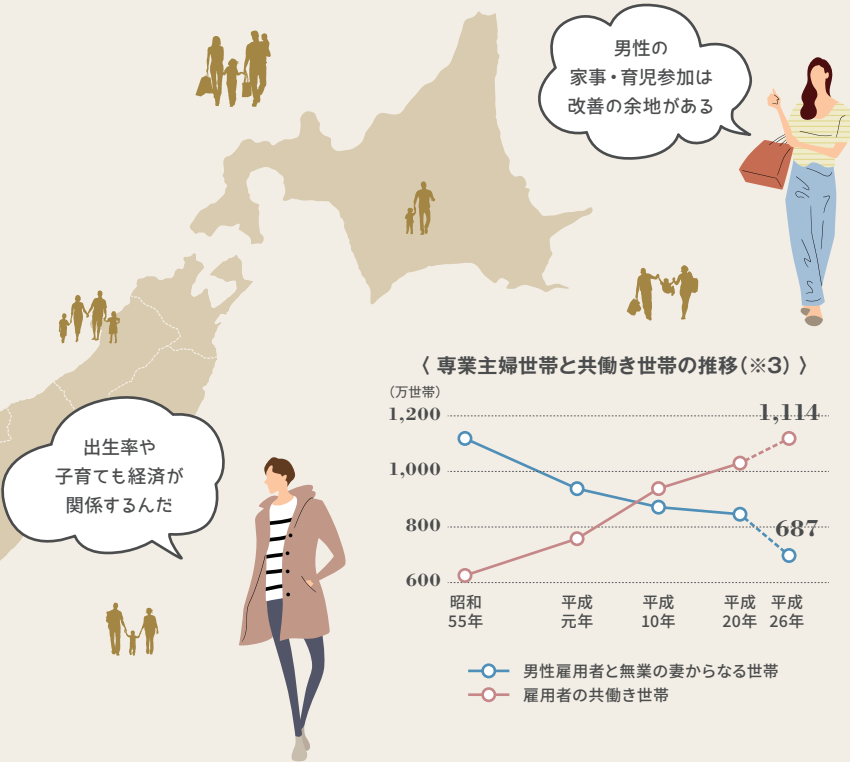
データから
世の中を読み
取ろう



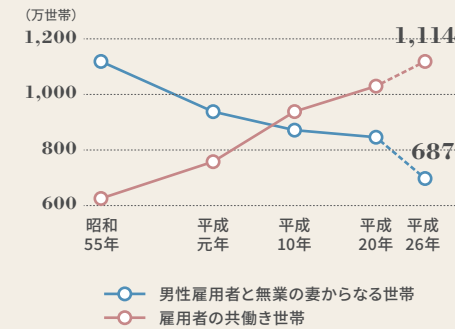
〈世界と比較した日本の夫婦の1日あたりの家事・育児時間(※2)〉



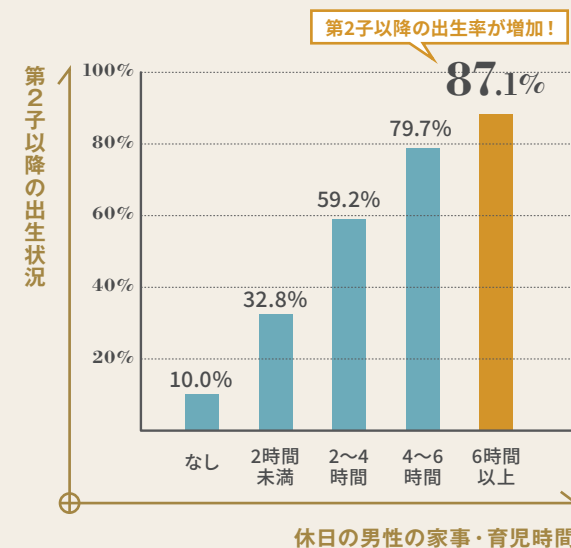
日本の男性は、1日あたり150分が目標!



〈専業主婦世帯と共働き世帯の推移(※3)〉



〈世界と比較する日本の夫婦の1日あたりの家事・育児時間(※4)〉



例えば日本の少子化問題、これにも経済状況が密接に関係しています。共働き世帯の増加、男性の家事・育児時間との相関性、データから社会を読み取ることが経済学のヒントにもなるのです。

※2・4: 出典 / 内閣府男女共同参画局 <https://www.gender.go.jp/>

※3: 出典 / 1980~2001年は総務省「労働力調査特別調査」、2002年以降は総務省「労働力調査(詳細集計)(年平均)」を基に作成